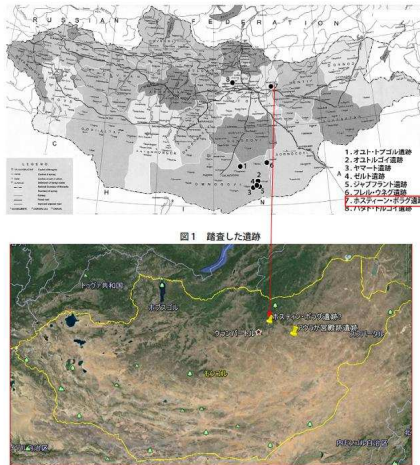


3. 匈奴の製鉄炉跡 ホスティング・ボラグ遺跡の発掘 愛媛大 笹田朋孝氏ほか講演より



モンゴル ホスティング・ボラグ遺跡から出土したスラグピットを伴う小型地下炉 塊煉鉄製鉄



地下製鉄炉の構造



ホスティング・ボラグ遺跡の土製羽口

ウランバートルに近い草原で発見された紀元前1世紀から紀元1世紀の製鉄炉跡で、居住跡などはともなっておらず、また、鍛冶関係の跡もなし。ピットを伴う小型製鉄炉で、羽口も見つかっている。

地上に製鉄炉を築く日本とは異なっているが、塊煉鉄製鉄法の炉で、羽口の差込角度はほぼたたら製鉄の場合と同じであり、高度な技術がすでに持っていたことが伺える。周辺の地域で出土した製鉄炉もほぼ同じ塊煉鉄製鉄法の地下炉であるが、ピットや土製の羽口のあるなしなどの地域差はある。これら発見された製鉄炉はいずれも草原の森林限界に位置し、製鉄に大量に使われる木炭入手の可能な草原と森林限界に沿って製鉄跡が作られているという。

----- 愛媛大 笹田朋孝氏講演より



森林と草原の境目を伝った製鉄技術 Iron Road